あ と が き

大学の入試制度の改革を、文部科学省が進めています。現在行われている、「大学入試センター試験」が、2020 年度には大学入学希望者の「学力評価テスト」に変更されるとのことです。また「高校基礎学力テスト」や各大学の入試も、「多面的な総合評価」を求められています。

このような入試制度の大きな変革のときを迎えて、教育の現場はどのように受け止め、対策を講じていくのか。本校では、これをチャンスの時と捉えて、飛躍につなげたいものです。

さて、教育の場で、生徒の学力差や、しつけ、家庭環境の問題などから派生する、現実的な問題が多々起こってきているわけですが、特に最近、貧困格差のことが話題に上がっています。昔から定時制高校が就労している生徒の「教育の砦」とされ、生活が豊かになるにつれ、数少なくなってきた認識があったので驚いています。また、学校に通えない、不登校の生徒も増え、その受け皿としてのフリースクールに対する概念も大きく変わり、文部科学省も動き始めています。

このような変革の時代を迎え、研究部のあり方も大きな曲がり角にきたと思います。これまでの活動の中身を高校･中学の現場でより活用していきたいことです。それぞれの教員が学んできた、授業研究、自己分析を客観的に評価し、それを教員全体の共有財産としていくことを描いています。

また、名古屋大学の院生が、研究テーマとして中等教育研究部の紀要の中から論文を選び、その分析をされたという話を聞き、授業研究にとって、大きな財産が、毎年刊行してきた紀要の中に埋まっていることを強く感じました。

「どのような取り組み、どのような授業展開、どのような資料提示が･･･」と授業研究のテーマに事欠かない、これらの資料を大切に振り返り、これからの中等教育の学びの場で大いに活用していきたいと思います。

平成 27 年 3 月 18 日

学校法人　名古屋石田学園
法人本部長　　石田　直城

中等教育研究部紀要　第7巻

2015年2月25日印刷
2015年3月18日発行

発　行　者　名古屋石田学園法人本部
代表者　石田直城
〒476-8588　愛知県東海市富貴ノ台2丁目172番地
℡052-689-6002

印　刷　所　名英図書出版協会
〒460-0008名古屋市中区栄一丁目14番32号